

恵庭市柏陽中学校から職場体験学習の生徒を受け入れました！

長島正幸

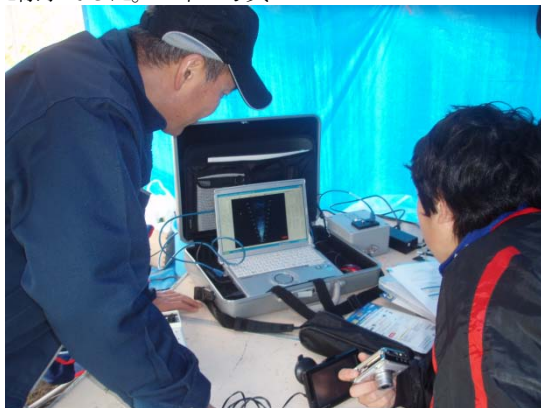
中学生の受入のカリキュラム作成等打合せを行った結果、漁川に遡上するサケの調査時期であったため、漁川フィールドワークやサケの脊椎骨計数作業など調査の一部を体験して貰うことと、体験の結果をプレゼンテーションすることを新たに取り入れることになりました。

第1日目は、緊張気味に現れた生徒4名を、永田場長を始め、場内職員に紹介し、オリエンテーションしました。

会議室において、さけます・内水面水産試験場の主な業務の説明などを、講義した後、内藤主査が場内の施設を案内しました。下の写真は、生理実験室でシジミ受精卵を顕微鏡で観察しているところです。



午後には、音響カメラによる漁川のサケ遡上数調査などを見学、捉えられた魚影を熱心に見て感動した様子でした。<下の写真>



第2日目は、午前中の2時間ほどを試験研究の計画立案から成果の発表までの過程について、研究成果発表会の課題を例に説明を行い、次に試験調査を実施するために必要な準備や採捕許可などの手続について、講義を行いました。あまり好評ではなかったようです。

その後、高津契約職員の指導により、飼育魚の給餌<下の写真>や水槽清掃などの実習を行いました。面白くと元気よく動き回っていました。



午後からは、神力主査、安富主査、安藤主任が、サケの脊椎骨など形質サンプル作製作業の実習を行いました。手際の良い作業に感心していたようです。臭いや流血に閉口することもなく、真剣に取り組んでおりました。<下の写真>



最終日には、体験感想のプレゼンテーションを行うため、午前中は、そのまとめを佐々木主幹と内藤主査の指導を受けながら、パワーポイントソフトを使い、プレゼンテーションファイルを作成しました。

結構、パソコンを使いこなしており、楽しみながらもスムーズに作業をしていました。

<下の写真>



その後、佐々木主幹の模範プレゼンテーションを聞き、いよいよ各自が発表することになりました。そこに中学校から川向校長先生と瀬尾先生が訪れ、職場体験に協力頂いた職員も交え、生徒の発表を聞くことになり、緊張しつつも皆、個性のある表現で

まとめ上げていました。<下の写真>



一瀬尾先生：談一

「この子達が、ここまで出来ようとは思いませんでした。感心しました。今回のような体験方法があることを知り、大辺勉強になりました。」

最後に場内職員と意見交換など交流して終わりましたが、短いけれども充実した体験ができたのではないのでしょうか。

佐々木主幹、内藤主査のほか、職場体験に御協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(ながしままさゆき：総務部)